



名古屋キャンパス概要報告

名古屋キャンパスは、とても交通の便と自然環境がよい場所に開設します。特に、日比野学舎は、地下鉄日比野駅に直結した通路で校舎に入ることができます。白鳥学舎は、日比野駅・西高蔵駅・神宮西駅の3つの地下鉄駅の中間に位置し、それぞれ歩いて5分程度です。また、金山総合駅やJR熱田駅、地下鉄六番町からも十分徒歩通学が可能で、名古屋駅からも20分程度の通学圏にあり、名古屋の都心の大学の中でも利便のよさでは最高の立地となります。

自然環境から見ても、南に白鳥庭園、東に白鳥公園、堀川を挟んで熱田神宮公園、北に名古屋国際会議場とその広場があり、とてもすばらしく勉学の場として優れた場所といえます。この通学利便と自然という2つの周辺環境がよいことが、名古屋キャンパスの大きな特徴です。

FEATURE

白鳥学舎について

白鳥学舎は、名古屋キャンパスの中心になり、多くの学生のみなさんがここで学ぶことになります。建物は、敷地の南側に8階建ての「総合校舎棟」、東側の4階建ての「学術情報センター・レストラン棟」、および北側には2階建ての「体育館」の3つの建物で構成されていますが、この3つは別々の建物というより機能分担であり、内部から自由にアクセスができる一つの建物といえます。「総合校舎棟」の特徴は、1階から4階までのアトリウム（吹き抜け）で、4,000人からの学生のみなさんの往來を緩和すると同時に、大きなラウンジとしての機能を持たせたゆとりの空間となります。1・2階は大教室（300人教室）と教務課・学生課などの事務室が配置されています。3階～6階は、中・小教室（150・60・30人教室）とパソコンを配した特別教室からなる教室エリア。7・8階は、教員研究室と理事長・学長室・学部長室などとなっています。

「学術情報センター・レストラン棟」は、1・2階が学生レストラン、3・4階が学術情報センターとなっていて、総合校舎棟内部からはもちろん、東側の白鳥

公園からもアクセスができ、学生のほか市民のみなさんも利用できるようになっています。

学生レストランは、約1,000席の予定で、現在、学生のみなさんの嗜好にあったメニュー、レイアウトを検討中です。3階の学術情報センターは、“静的学習空間”として図書館を配し、キャリアセンターを併設しています。4階は、“動的学習空間”として情報教育センターを配し、国際交流センター、基礎教育センターを併設しています。

「体育館」は、2階にアリーナ、1階に小体育館・トレーニング室・シャワー室の他、ショップ（書籍・コンビニ）・ラウンジ・クラブ室などを配し、スポーツ機能だけでなく、学生会館機能を併せ持たせています。

その他に、テニスコート（3面）およびチャペル・クラブハウス（2期工事）を設置します。また、240台収容できる学生用自転車駐輪場（自動車・バイク通学は禁止）も設置します。

●白鳥学舎（イメージ）

白鳥学舎（しりとり）

所在：名古屋市熱田区熱田西町
敷地面積：16,237.6㎡（4,911.8坪）

- 主に、専門教育等2年生以上が学ぶ
- 学校法人名古屋学院大学本部としての機能
- 主要施設

教室、学術情報センター・図書館、
学生食堂、学生会館、研究室、事務室、
体育館、テニスコート

着工 2005年8月1日
竣工予定 2006年12月25日頃
開学 2007年4月



図書館



レストラン



体育館



アトリウム